

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団裕正会		
事業所名	グループホームウエルケアSUN		
所在地	(〒223 -0058) 神奈川県横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年は新型コロナウイルス感染予防とその状況下での生活の質をどうするかが大きなテーマでした。感染予防は法人で取り決めに作成し、職員は自宅と出勤時の検温、手洗いやうがいの実施、ホームではこまめな換気、消毒等を行ってきました。3月よりご家族に説明の上面会を中止させて頂き、10月より条件付きで面会を再開しましたが11月に新型コロナウイルスの感染者が増加したため、再び面会を中止させて頂きました。面会時はご家族もすぐに来られる方と、自分が感染源になるといけないと躊躇される方とに分かれました。ご面会された方は入居者よりもご家族の方が喜ばれておりました。ご家族と会う機会や外出の機会が減り利用者様もストレスも増してきていました。家族が病気になるので会いに行きたいと何度も訴える方には、ご家族に事情を説明し電話で話をさせて頂きました。買い物に行きたいと言われる方にはコロナ禍の状況を説明し職員が希望の品を買いに行ったりしました。限られた条件の下、ユニットごとに夏祭りや敬老会を行い、敷地内での外気浴や室内で出来るゲームや歌など実施して気分転換をはかっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年1月8日	評価機関 評価決定日	令和3年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇理念に基づいた利用者本位のケア
・「大切な人だから」の理念に基づいて職員は利用者一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活を送れるように支援している。職員は今日の私は笑顔でいられたか、命令口調にならなかったかなどをチェック表で振り返り、ケアに取り組んでいる。
◇職員の工夫で行事を楽しみ、家族との情報交換
・コロナ禍で外出や家族との面会ができない中、職員が歌の会やかき氷、スイカ割りなどの行事を計画、利用者は職員が着物を着て琴を奏で正月の雰囲気、クリスマス会ではクリスマスソングに合わせて、職員が用意したプレゼントを交換するなど楽しんでいる。
・毎月利用者の健康状態や生活の様子を家族に手紙で伝え、荷物を届けに来た家族に利用者の様子を伝え、タブレットで日頃の生活の動画を見てもらっている。
【事業所が工夫している点】
◇新型コロナウイルスの予防
・設置法人が新型コロナウイルス感染予防の指示書を作り、職員研修を行い、医師から感染予防の指示を受けて予防に努めている。職員は事業所に入る前に、服を着替えるなどして感染リスクを抑えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームウェルケアSun
ユニット名	大地

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実の運営理念、「利用者本位の寄り添った援助」の事業所目標を理解し多忙な業務の中でいかに実践するか考えている。重度化により「大変だ」などの声もあるが管理職が姿勢を示し改善に努めている。	・法人理念「大切な人だから」を入職時に説明を受け、理念に基づいた利用者一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活支援をしている。 ・利用者担当職員を決め、一人一人に合う細やかな支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し運動会などの行事のお誘いや、新田小学校特殊学級の訪問、子供110番や行方不明者の発見につながる「さがしてネット」に参加している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、行事などの実施は行っていない。	・町内会に参加し、回覧板の添付書類は事業所分を別に用意してもらったり、コロナ禍前は新田小学校特別学級との交流、利用者が近くの公園の草取りを行うなど地域との交流があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で委員の方から認知症の方々への関わり方について質問を受けいくつかの事例をお伝えしている。身内の方の具体的な相談や悩みなど対応方法等についてもお答えしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見や連絡事項などは運営に活用している。町内会長より求人の際、町内会に従業員募集の案内を回覧してもらった。身体拘束ゼロの対応状況も報告し介護の実情を理解して頂けた。	・2か月ごとに町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、他の介護施設職員、家族の方が参加していたが、コロナ禍の現在は活動状況や利用者の健康管理、ヒヤリハット、改善案など活動状況報告書を書面交付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に医療券依頼や介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。生活保護受給申請も行き生活支援課とやり取りをした。介護相談員の受け入れは新型コロナウイルス感染予防のため1月23日が最後となっている。	・港北区生活保護支援課の担当者と手続きなどで連携を取り、情報を交換している。 ・横浜市グループホーム連絡会に参加している。 ・港北区や鶴見区と入居のことで連絡を取りあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時に身体拘束に関する研修を行い「身体拘束ゼロ」の法人の方針を伝えている。毎月法人内GH管理者が集まり「身体拘束等適正化対策検討委員会」を開催し身体拘束の現状について話し合っている。	・身体拘束をしないケアについて資料を基に研修を行っている。 ・グループホーム管理者会議の中で、「身体拘束等適正化対策検討委員会」を行い、身体拘束の現状を話し合っている。 ・職員は意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県より「虐待防止に係る一斉点検実施」の依頼があり毎年自己点検を実施し虐待に関する再認識と振り返りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方が何人かいらっしゃるの、後見人と連絡を取り合いどういう時や、どういう場合に相談するかなど具体的なことを教わりながら知識を増やしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し十分に時間をかけて説明している。質問などにはその都度丁寧にお答えしご本人およびご家族の理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月生活状況などの報告を行い利用者の様子を知ってもらっている。それを見て家族から連絡を頂いたりしている。利用者に状況の変化があった時は報告、相談し家族の意向等をききホームの考えも伝え援助方針を決めたりしている。	・例年は家族会を年2回行っていた。コロナ禍の現在は毎月利用者の健康状態や生活状況の報告書を家族に送っている。 ・面会は実施していないが、家族が荷物や届け物をもって来たとき、管理者が会って、利用者の様子を伝え、家族の意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は新型コロナウイルス予防もあり実施していないが、個々にこちらから話しかけたり相談を受けたりコミュニケーションを取り働きやすい職場であるように心がけている。	・コロナ禍で全体会議は行っていないため、職員からの意見を日々の業務の中で聞いている。 ・職員の意見でリビングのソファの買い替えを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規定人員以上の職員配置を実施し、介護の質の確保に努めている。有給休暇も働き方改革に則り5日以上は提供している。夏・冬、各3日季節休暇も提供しリフレッシュしてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者は身体拘束、認知症の研修を行っている。設置法人のウェルケア新吉田での新人研修も行っているが新型コロナウイルス感染予防の為、今年は参加していない。介護福祉士などの資格取得のサポートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に所属し交流がある。港北・都筑区合同の研修会も開催されていて参加していた。月に1度、法人内のグループホーム管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の生活歴などの情報を収集し入所後どのような援助が必要か確認している。入居後はご本人の様子をみてアプローチ方法を考えたりコミュニケーションを取ることで信頼関係を構築するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時、ご家族の不安や疑問に答え、可能な限りご本人とご家族の思いに沿った生活の提供を行うようにしている。そのためにご家族には援助方法を提示し、ご家族などの意見も取り入れた介護計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にホームの見学をして頂いている。その際グループホームの説明を行い利用者のご家族の要望に沿っているかの話し合いもしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を確認し、それを行う事で生きがいにつながる様な援助を行っている。出来る事はご自分で行う喜びを提供し職員はあえて手伝わす待つことを心がけている。また、さりげなく援助することで達成感を感じて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には報告書を通じご本人の様子を知って頂いている。その中でご家族に依頼することなども報告させて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため面会や外出を中止している。以前は、ご家族と墓参り、外食、演劇鑑賞、遠方のご家族との電話等実施していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で友人や家族との面会は行っていない。家族からの電話を取り次いでいる。 ・携帯を利用している方にはかけ方を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に合わせた生活を尊重しつつ、集団での生活が快適になる様職員が間に入り調整している。個人の立場を尊重し無理に全体に合わせるようなことは行っていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族より亡くなられたとのお知らせを頂く事が多々あります。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話等でその方の思いや意向の把握に努めています。困難な場合その方の思いを考えながら対応しており、快、不快は表情より読み取っています。	・職員は利用者との日頃の会話から意向の把握に努め、把握した情報を申し送りノートで他の職員と共有している。 ・把握の困難な方からは表情や仕草から、また家族からも聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の記録等を読み把握しています。その他ご本人、ご家族からの話を聞きながら情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で情報を得ています。他のスタッフとも連携を取りながら現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとり担当を決めアセスメントを行い計画作成担当者とカンファレンスを行いケアプランを作成しています。他の職員とも情報交換しより良い生活が提供出来るよう努めています。状態が変わった場合その都度話し合いをしています。	・利用者の担当職員がアセスメントを行い、カンファレンスを行って、計画作成担当者が医療関係者の助言や家族の希望を取り入れ、3か月ごとに見直し、6か月ごとに更新している。 ・急変時はその都度見直している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子を見て職員との情報交換、介護記録等を共有しながらご本人に合ったプランを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でご家族の協力や外出が厳しいが法人内で連携できるところは協力して頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部からの支援は厳しいが法人内で支援できるところは協力して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人内クリニックの説明を行い契約して頂いています。定期的に医師、看護師の訪問を受け医療機関との連携をとっています。訪問歯科も定期的実施しています。	・利用者全員が法人の協力医を主治医としている。月2回の往診、24時間体制での電話相談対応、緊急時の往診があり、訪問歯科は週1回、精神科、皮膚科、眼科などの往診もある。 ・新型コロナウイルス感染予防の具体的な指示を受け対策を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事故や異変、異常があったら看護師に連絡し対応している。契約している訪問看護ステーションは24時間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時は医師より相手先病院に紹介状を提供している。入院後は病院の相談員などから情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応」について説明を行い同意を得ている。また、終末期については医師やご家族、管理者と話し合いを行い、その方針を職員間で共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重度化や看取りについての対応の同意を得ている。 ・職員はターミナルケアマニュアルで研修を受けている。 ・重度化した場合は再度、意思確認を行い、医師、家族、職員と方針を共有し支援する体制が出来ている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルに沿って対応している。有事の際は職員同士連携し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。水災害地域の為避難確保計画（洪水）も作成し、水災害時の避難訓練も実施している。コロナ禍のなか消防派出所所長立会いのもと防災訓練も実施できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。防災訓練マニュアルがあり、手順書を定期的に確認している。水害の避難確保計画書があり水害時の避難訓練も実施している。 ・3日分の食料と水をリスト化し備蓄している。 	・コロナ禍が収まったら自治会と災害時の協力関係にむけた話し合いや、地域住民への働きかけに取り組まれることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は苗字でお呼びし丁寧語で話しかけています。認知症ゆえ出来ない事等あっても決して否定せず受け入れ相手を傷付けないよう対応をしています。	・職員は入職時に法人で接遇の研修を行い基本的な心構えを学んでいる。 ・倫理および法令順守のマニュアルがあり、人格を尊重した言葉かけで利用者が不快な気持ちを持つことなく過ごせるように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本人の希望を聞くようにしている。職員からの提案時は利用者を選んでもらえるような方法を取る様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の強制はせず、利用者の希望を伺いそれを行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床したら髪を整え、希望があれば着替えを手伝っている。化粧をする方の化粧品は職員が買いに行っている。アイペンシルをとがらせてと職員に依頼してくる利用者もいる。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人一人の嗜好やアレルギー、嚥下状態などを考慮して個人に合ったものを提供している。土用の丑の日のうなぎ、正月のおせち等の提供をしている。出来る方にはテーブル拭きや食器の下膳、食器拭きなどして頂いている。	・法人の管理栄養士監修の副食が配達され、職員は温かいごはん味噌汁を用意し職員も一緒に食事を楽しんでいる。行事食や出前、おやつには手作りクリームパフェなども楽しんでいる。利用者は危険のない範囲で食器の下膳、食器ふきテーブル拭きをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を促し実施している。個々の状態に応じ出来る時はご自分で食事できるよう声掛けを行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能の低下を防ぐため可能な方は声掛け促しを行い、ご自身で口腔ケアをして頂く。利用者毎に歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間を見ながら声掛け誘導を行う。食前食後など様子観察し、スムーズなアプローチが出来るよう心掛けている。立位が不安定な方は車椅子を手摺代わりに使用し安全で安楽なトイレ排泄が出来る様にしている。	・トイレでの排泄に向けて排泄表、仕草、表情を見逃さないようトイレ誘導をしている。夜間は定時誘導やセンサー、ナースコールで失敗のないように自尊心に配慮し支援している。トイレ内でのズボンの着脱についても、できることは自分でして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや個々の排泄状態に応じたコントロールを実施している。コロナ禍の為、散歩が出来ず運動量は減っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調や状態に応じた支援を行っている。入浴剤の使用で温泉気分を味わって頂いている。入浴拒否の時は無理強いせず、時間を空ける、他のスタッフが声をかけるなどアプローチを変えている。	・入浴は週に2回を基本としている。体調や状態によりシャワー浴や清拭をしている。 ・季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を楽しんでいる。 ・全身チェックでスキントラブルに気づく機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて午睡して頂いたり安眠できる様に室温調整を行っている。入床時は安心して眠って頂けるように笑顔での対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的は理解している。副作用等についてはお薬の説明をみて確認している。服薬が確実に出来る様に支援し症状の変化も小さな事でも見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や好みに合わせたレクリエーションを行い、会話をしたりしてコミュニケーションを取り気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍で外出が出来ないため室内でのレクリエーションやイベントで楽しんでいただけるよう支援している。	・コロナ禍以前は家族と買い物、外食、墓参り、花見など出かけていたが、現在は室内でのイベント、夏祭り、歌、パズル、風船バレーなどを行っている。暖かい日には駐車場で外気浴やプランターの草花の水やりをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニなどでの買い物の際、可能な方はご自分で支払いをして頂いていたが、今年はコロナの為外出が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時の状況により家族に電話をかけ本人に代わりお話して頂いています。コロナ禍の為、面会できないので可能な方に家族宛の手紙を書いて頂いた。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならない様清掃を行い、におい等にも気をつけています。床暖房や加湿器を使用し快適な環境を提供するよう努めています。正月飾り、クリスマス飾り等も実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温・湿度の管理は職員がしている。床暖房を使用し快適に暮らせるよう配慮している。共用空間には季節感のある飾りつけをしている。 ・1日に2回手すりや床を消毒液で拭き掃除をしている。 利用者も簡単な部分を手伝っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になりたい様子が見られた時は居室で過ごして頂いています。気の合う方同士が楽しく会話が出来るような食席の配置もしています。テレビ前のソファに誘導しテレビを楽しんで頂けるようにしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものをご家族とも相談しお持ち頂いています。転倒を繰り返す方の部屋は導線を考えた家具配置を行ったり、余分なものが有ると混乱する方は落ち着くような環境にしました。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンと防炎カーテン、照明を事業所で設置している。 ・テーブル、椅子、テレビ、仏壇や位牌を持ってくる利用者もいる。壁には家族との思い出の写真を貼りくつろげるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりその方が出来る事はご自分でやって頂き、出来ない事はお手伝いをして安心安全に暮らせるよう支援しています。	

事業所名	グループホームウェルケアSun
ユニット名	太陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年数を重ねるごとに理念の理解はかなりできており意識はしているが現状全てを実践できているとは言えず今後更に意識を高めて共有し実践に繋げて行く。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で全てが制限の中今まで経験をしたことが無い日々を送っており交流には至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の介護老人保健施設ウェルケア新吉田を通じて学んだ地域交流、理解や支援の方法を活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見や連絡事項等は運営に活用している。町内会長より求人困っているなら町内会に従業員募集の案内を回覧してあげると言って頂けた。身体拘束ゼロの状況も報告し介護の実情を理解して頂けた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の担当者に医療券依頼や介護保険更新後の情報提供等連絡を取っている。生活保護受給申請も行った生活支援課の方とやり取りをした。介護相談員の受け入れ中だが新型コロナウイルス感染予防のため1月23日が最後となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様お一人お一人の身体状況の変化、日常生活の状況を常に確認、理解し身体拘束をしないケアを提供している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームは比較的狭い空間の中でのケアが中心となり、複数の職員がチームケアとして業務を共有している事で虐待が行われないような環境作りを整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をより深く学べる機会を活かし、必要である方を知り、話し合いの場を持って対応できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利義務を明示し十分に時間を取り説明している。質問等にはその都度丁寧に説明しご本人及びご家族の理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日々ご利用者様を理解し、コミュニケーションを図り会話し、話の内容によってはご家族に相談しカンファレンスを行う事によって改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員の意見に耳を傾け話を聴き必要に応じて話し合い、その都度意見交換しながら改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の重度化に伴い規程人員以上の職員配置を実施している。有給休暇も働き方改革に則り5日以上は提供している。夏・冬、各3日季節休暇も提供しリフレッシュしてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者は身体拘束、認知症の研修を行っている。母体のウェルケア新吉田での新人研修も行っているが新型コロナウイルス感染予防のため今年は参加していない。介護福祉士等の資格取得のサポートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に所属し他のグループホームとの交流がある。月に1度、法人内の管理者が集まり情報交換や意見交換、取り決めなど話し合いサービス向上に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄のご本人様の生活スタイルに近付ける様に努力し、寄り添い傾聴しより信頼して頂ける様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や疑問を傾聴しより安心した日常生活を送れる様、またご本人とご家族の思いに沿った援助を共に考え皆様の笑顔を引き出していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明をご利用者様とご家族様の要望に沿っているか話し合いより良い日常生活を送れるように援助している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今できる事を見逃さない様一緒に行っていき、少しでもやりがい、生きがいを見出せるよう援助している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月必ずご家族様へ報告書を通じてご本人様の生活の様子、気付き等をお伝えし関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご面会、外出等が制限されている中、出来る限りの工夫をし、より良い関係が途切れない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今出来る事を大切に、皆で一緒に出来る事を見出し、ご利用者様同士もコミュニケーションがとりやすいような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組みを常に心掛け、退所された後の関係も大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴し希望に沿うよう努めているが利用者からの声に対しその内容が理解できない場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	業務上で必要な時に記録を参照したり、他職員に聞いたりして対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、引継ぎノート、業務記録を確認し、利用者の情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族がホームに来院できない状況が続いているが、ケア内容については現状を踏まえて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況については日勤リーダー、夜勤者が記録しており、職員のそれぞれの意見については定期的カンファレンス等で話し合っ改善し介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で提供できるサービス内容が制限されている。その中で可能な支援を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が不可能な状態になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診と日々の観察、バイタルチェック、医療連携体制により必要に応じて医療サービスを受けられる体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を実施。急な体調不良時等、気になる事が発生した場合は、随時電話にて訪問依頼し、処置やドクター受診の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう努めている。また、ご家族とも連絡を密にし入退院を滞りなく行えるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の方針、対応の限界等を本人・ご家族に説明している。その後も必要時に話し合い、ご家族の意向を確認しながら方針に納得して頂けるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法を事前に確認している。対応マニュアルを作成しスタッフに周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル、避難計画を作成し消防署立会いの下、年2回の避難訓練を実施。訓練内容を記録に残しスタッフに周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の基本方針に基づき個人の尊厳を守るよう声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うことの他に日常のコミュニケーションから潜在的な要望を推測し、スタッフから声掛けするよう心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の趣味や生活のペースを把握し、ストレスなく生活できるように支援している。行事参加、就寝起床などもスタッフと協議しながら個人のペースを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の嗜好、これまでの習慣を尊重しながら、清潔を心掛け季節や場所に適した衣類等の提供、アドバイスをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事会を催し食事に変化をつけて楽しんで食べられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援はできている。水分・食事量ともにスタッフが気にかけている。少ない場合は工夫をしたり、医師や看護師に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来る所はやって頂き出来ない所を介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛けを行っているが、業務が忙しく忘れてしまう時もあるので注意していく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にオリーブ油を少しだけ混ぜたりしている。コロナの為散歩も中止しており運動量が少なくなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴回数や体調に着目しながら入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ねできていると感じる。個人毎にその日の状態や生活のリズムを考えながら行っている。午睡や入眠誘導の時間や体位等職員間で情報交換しながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に関しては介護の視点からは難しく感じる事が多い。薬の量、内容指示変化が多い場合、情報を常に新しく把握せねばならないが、実際は理解不足であったり忘れてしまったりと今後の課題と感じる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間で話し合い比較的積極性をもってレク・リハ等行っている。歌・ギター鑑賞、ハンドマッサージ、晩酌、パルーンゲーム等個別に楽しんで頂けるようよく努力していると思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出が出来ないているが、玄関先での外気浴（短時間10～15分程度）など、個人の希望に合わせてリフレッシュして頂けるよう努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を理解されてる利用者様には希望の品物（食べもの）を聞いて買い物代行に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意思表示の出来る利用者様に限っては電話等取次ぎコミュニケーション支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、ソファ等レイアウト、利用者様に不便のないような導線の取り方、季節感、清潔感のある環境作りに関して職員間で十分努力していると思う。非常によく行っていると感じる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分の落ち着く場所は個人に合わせた環境作りができている。お部屋が好きな方、ソファが定位置の方など思い思い自由にして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	完全に満足がいくものかは計りかねるが仏具の位置、大事にしているもの（アルバム、時計など）は適切な場所を考えて配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に居心地よい生活空間を作れるようスタッフ同士で頻繁に情報交換を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームウエルケアSun

作成日 令和3年2月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に自治会や地域の方の協力を得る。	地域の方と防災について協力し合う関係を築く。	コロナ禍が治まったら地域の方をホームの行事に招待し関係を深める。親しくなった上で防災訓練への参加をお願いする。地域主催の防災訓練に参加し地域貢献できることを探し協力していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。